



前田土佐守家資料館

金沢市片町2-10-17(長町武家屋敷界隈)
TEL 076(233)1561 FAX 076(261)0806
開館時間 午前9時30分～午後5時(受付は午後4時30分まで)
休館日 なし(ただし展示替期間中臨時休館)
年末年始も開館しています
入館料 一般300円 団体一般250円(20人～) 65歳以上の方250円
高校生以下は無料
交通 金沢駅東口バス停から北鉄バスで「香林坊」(アトリオ前)下車
徒歩5分
<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/bunnho/maedatosa>

加賀藩では他藩の家老に相当する最高執政職を「年寄(衆)」と称します。この年寄(衆)は藩主前田氏の一族や功臣の家柄など八つの家の当主が世襲で務め、明治に至るまで続きました。この八つの家は「八家」と呼ばれます。

前田土佐守家は「八家」の一つです。同家は加賀藩祖前田利家とその夫人まつの子前田利政を家祖とすることから藩主前田家の分家筋にあたります。また、利政の長男で2代当主の直之は、幼少時に祖母芳春院こと前田利家夫人まつにひきとられて養育され、彼女の尽力あって元和元年(1615)に3代藩主前田利常に召し抱えられました。これ以後、前田土佐守家は、藩政期を通じ約1万石の禄高をもって藩の要職を歴任しています。

同家は利政以後、明治維新を迎えた直信まで10人の当主を数えます。このうち利政を除く6人が、従五位下および国主号の叙任を受け、5代直躬・6代直方・7代直時・10代直信が土佐守に任ぜられたため、一般に「前田土佐守家」と称されるようになったのです。

前田土佐守家に伝来した古文書の他、武具・書画などあわせて9000点の歴史資料を保存・公開する施設が当館です。前田土佐守家伝来の資料は歴代当主が保存整理に務めてきたため、散逸が少なく、古くは戦国時代～明治時代にいたる多くの資料が良好な状態で保存されています。

当館では古文書中心の展示となっております。



それは資料館の収蔵品の3分の2にあたる6,000点が古文書で占められているからです。これらの文書は、前田土佐守家の成立や家の維持に関する家政文書群、加賀藩年寄役として藩政史上において同家の果たした役割を考察するに格好の藩政文書群、当主の教養・修養等に関する学芸文書群などから構成されています。これら文書群なかでも、芳春院自筆書状5通は、息子利政や孫直之のことを気にかける母・祖母としての芳春院(まつ)の心情がよくあらわれているものばかりで、前田育徳会(尊経閣文庫)と当館でしか見られないものです。

武具甲冑・書画・工芸品類は、見るべきものは決して多くはありませんが、藩祖前田利家ほか前田土佐守家歴代当主所用の甲冑・武具・刀剣や当主の肖像画を含む書画類などがあります。とりわ



刀 銘秋之嵐 拵共

銘 表:秋之嵐(銀象嵌)裏:織田七兵衛所持 伝 関孫六兼元作室町 16世紀 前田利政所用

本品は家祖利政が所用し、その後嫡男直之に譲られ、代々前田土佐守家の家宝として伝えられたもの。江戸時代最後の前田土佐守家当主(十代)直信の肖像写真にもこの刀(拵)が写っている。刀は室町時代の美濃の刀工、関孫六兼元の作と伝わる。

刀は、反りが浅く、刃文は尖った互の目の三本目が高くなる「三本杉」である。後世の三本杉と比較すると頭が揃わず互の目の頭にも丸みが見られる。「秋之嵐」の表銘と「織田七兵衛所持」の裏銘がある。

拵をみると、鞘は栗色に波の地文の上に五三桐紋が金の平時絵でほどこされている。柄は白藪着せ山吹糸巻き(白の藪革をかぶせて山吹色の糸を巻く) 目貫は想像上の動物獺である。栗形や返角についている金象嵌の梅鉢紋は、後世に改変したものである。

常設展示ではありません。展示につきましては館にお問い合わせください。

け、初代利政の所用とされる甲冑「黒漆塗黒糸威二枚胴具足」と刀(銘秋之嵐)はいずれも16世紀の作とみられ、藩主の血筋を受け継ぐ当家を象徴する逸品です。

展示は前田土佐守家の歴史を紹介する常設展示(通年)、テーマごとに様々な角度から前田土佐守家資料を紹介する企画展(年4回)を開催しています。平成18年度開催の企画展は「絵すごろく展」(18年4月22日～5月28日)、「京都大徳寺芳春院展」(6月3日～18日)、「前田土佐守家の奥方たち」(6月29日～9月24日)、「前田土佐守家の養生訓」(9月30日～19年1月14日)、「前田土佐守家お抱えの学者たち」(19年1月20日～4月14日)です。



黒漆塗黒糸威二枚胴具足 桃山 16世紀 前田利政所用 兜刻銘 春田勝光

黒漆塗の二枚胴に籠手、臍当、佩楯、兜、頬当が附属する、いわゆる当世具足である。

兜は鉄板6枚を矧ぎ合わせた鉢に兔耳を張懸けて銀箔を押し出した銀兔耳形兜である。頬当は目の下から顎までを保護し、切付小札毛引威の垂が付く。胴は伊予札を横矧ぎし菱鱗型の紙を打った桶側二枚胴。全体に黒漆を塗るが、横矧の下2段には銀箔を押し出す。草摺は伊予札に黒漆を塗り5段に素懸威したものを前胴に3間、後胴に4間配置する。佩楯は伊予札を綴った上に黒漆を塗り、6つの円弧文の中央に丸文を配した文様の地に金箔を押し出す。籠手は丸鏡金の小箆を鎖の間に配した小箆籠手で、臂金具は鉄の菊座で手甲には大指が付く。臍当は7本の箆を鎖で5箇所繋ぐ箆籠当である。

家祖利政所用と伝え、代々土佐守家に伝来した。全体を黒で統一し兜・胴・佩楯に金銀を配置する意匠は現代にも通用する色彩感覚であり、利政の高い芸術的センスを窺い知ることのできる逸品である。

常時展示しています。



黒漆塗蟹牡丹時絵煙草盆

前田利政所用

土佐守家家祖利政が所用したと伝えられている。黒漆塗の地に金・銀時絵にて蟹牡丹紋を散らした気品ある煙草盆である。蟹牡丹とは、元来、錦の文様の一つで、牡丹の花と葉の形が蟹に似ていることからその名称がある。

常設展示ではありません。展示につきましては館にお問い合わせください。

ご案内

平成18年度企画展 「前田土佐守家の養生訓」

開催期間 平成18年9月30日(土)～平成19年1月14日(日)
前田土佐守家伝来の医薬・病・養生に関する資料を紹介します。

平成18年度企画展 「前田土佐守家お抱えの学者たち」

開催期間 平成19年1月20日(土)～4月14日(日)
前田土佐守家に仕えた儒学者たちの事跡を紹介します。
これまで開催された各企画展の内容については館報「起居録」(無料配布、バックナンバー在庫あり)でお知らせしております。